

# JAFAMEニュース

NO.23 June 1st, 2020

アジア市場経済学会東部部会研究報告会が2019年11月23日（於 亜細亜大学）に、アジア市場経済学会東部部会研究報告会・日本貿易学会東部部会との合同研究報告会が2019年12月21日（於 日本大学）に、アジア市場経済学会西部部会研究報告会・日本貿易学会西部部会との合同研究報告会（於 広島市立大学）が2020年2月15日に開催されました。

各研究会にて御尽力頂きました先生をはじめ、関係者の皆様のご協力のお蔭で、充実した各プログラムが成功裏に実施されました。本会報冒頭におきましてまず、各研究会実行委員・事務局の先生方並びに関係スタッフの方々のご尽力に心より御礼申し上げます。

第24回全国研究大会（2020年度）はWebで開催されます。研究活動の活性化を通じて、更なる学会の発展を目指したいと考えておりますので、学会員の皆様には一層のご協力を賜りますようお願い致します。また、学会の運営に関しまして、忌憚ないご意見・ご要望をお寄せください。

今後とも本学会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 本号の主な内容

- I. 会長挨拶
- II. 2020年度全国研究大会開催案内
- III. 2019年度全国研究大会報告・部会報告
- IV. 学会の運営に関する事項
- V. 2019年度海外視察研修報告

アジア市場経済学会  
Japan Academy for Asian  
Market Economies  
HP:<http://www.jafame.jp/>

〒574-8530  
大阪府大東市中垣内3-1-1  
大阪産業大学経営学部  
藤岡芳郎研究室内  
MAIL:[yfujioka@dis.osaka-sandai.ac.jp](mailto:yfujioka@dis.osaka-sandai.ac.jp)

## I. 会長挨拶

会長 村松 潤一  
(岡山理科大学経営学部教授)

昨年7月に会長就任以来、約1年が経過しようとしている。就任にあたって掲げた方針は大きく「国際化の推進」と「基盤強化」のふたつであるが、両者は密接に結び付いており、会員はもとより、それぞれの委員及び委員長、WGメンバー及びリーダー、そして、東西副会長、本部事務局長の理解と協力を得て、本学会も新たな展開をスタートさせることができた。ここにあらためて感謝申し上げたい。

特にコロナ禍にあって、開催そのものが危ぶまれた第24回全国研究大会ではあったが、本学会の研究水準の向上と維持のために、何とか開催したいという私の意向を踏まえ、早い時期に現地開催からWeb開催に変更し、その準備を進めてきた林田秀樹実行委員長には頭の下がる思いである。そして、今大会は「国際化の推進」の一環として英語セッションの設置という国際化推進WG藤岡資正リーダーの考えが反映されるとともに、「基盤強化」の一翼として、若手研究者育成のための院生報告セッションが組み込まれており、これまでにない新しいプログラムとなっている。他方、長期にわたり年報のJ-Stageへのup作業に取り組んできているJ-StageWG高橋義仁リーダーにも、また、感謝しなくてはならない。私としては、年報の電子化を一刻も早く完了することでその貢献に報いたいと考えている。

さて、振り返るなら「アジアの時代21世紀」を見据えて創立されたのが本学会であり、世界におけるアジアのプレゼンスを一層高めるためにも、学会のさらなる飛躍は強く望まれている。会員皆様のこれまで以上の支援をもとに「国際化の推進」と「基盤強化」を一層推し進めていきたいと考えている。

## II. 2020年度全国研究大会開催案内

アジア市場経済学会第24回全国研究大会のお知らせ

第24回全国研究大会実行委員長 林田 秀樹

拝啓 皆様に置かれましては、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大に伴う社会状況の激変のなかで、公私ともにご不便な生活をお送りのことと存じますが、ご健康にだけはお気をつけて過ごしておられますよう念じております。

当初、標記大会は、7月4日(土)、5日(日)に同志社大学今出川キャンパスにて開催の

予定でしたが、COVID-19の感染拡大防止のためにとられていた当該キャンパスの入構禁止措置等の制約が大会開催時までには解かれる見通しが立たなかったため、4月末の理事会での審議を経て開催方法をウェブ開催方式に変更したうえで実行することとなりました。

「アジアの価値連鎖は日本に還るか？—現地進出企業による日本経済への貢献—」をテーマに企画を進めていた統一論題セッションへのゲスト講師の招聘こそ見送らざるをえませんでした。会員から同セッションへのエントリーも2名あり、自由論題報告への24組に上るエントリーと併せ、開催方式変更前の予定プログラムをほぼ維持したまま、開催に向け準備を進めていくことができました。そのなかには、村松会長を始め理事会でこの間検討され具体化が図られてきた国際化推進のための英語セッションや、若手研究者育成のための若手（大学院生）セッションも含まれています。

このお知らせが皆様の元に届く頃は、すでに本学会HPで周知させていただいた方法で大会が進行中であることと思います。本学会の研究水準をより一層向上させ、日本を含むアジアの経済への学術的貢献を積極的に行うために、今大会への皆様の積極的なご参加をお待ち致します。

敬具

#### 記

- ・日時： 2020年6月20日(土)～7月5日(日)
- ・開催サイト： 同志社大学クラウドに設定された共有フォルダ
  - ※ 研究報告の応募は4月初旬にすでに締切らせていただいております。
  - ※ 大会プログラム並びに報告要旨集は、本学会HPにて公開中です
- ・問合せ先： アジア市場経済学会第24回全国研究大会事務局 林田 秀樹  
Tel: 075-251-3951(研究室直通) E-mail: hhayashi@mail.doshisha.ac.jp  
jafame24@gmail.com

以上

#### 【アジア市場経済学会 第24回全国研究大会・趣意書】

「アジアの価値連鎖は日本に還るか？—現地進出企業による日本経済への貢献—」

日本企業は、1980年代半ば以降、プラザ合意による円高を背景に当初は米欧等主要貿易相手国向けの輸出が不利になった状況を回避することを目的に世界各地に直接投資

を行い、生産拠点を移転させていった。特に、タイを始めとする東南アジア諸国や中国などアジアの国々には、自動車・二輪等の輸送機系や電機系を中心として製造業企業が大規模に進出し、現地での事業を拡大させてきた。進出ラッシュが始まってから30年以上が経過した2018年末時点で、日本の対外直接投資残高は総額で約174兆円に上り、このうちアジア諸国向けは約50兆円と3割近くを占めている。このように大規模な日本の対アジア直接投資は、主に最終財企業並びに関連サプライヤー企業の現地進出というかたちで実施されてきたのであるが、それらの間の投入産出関係を現地で再生・形成するだけでなく、進出先の資本による裾野産業の形成・発展にも寄与してきた。そのようにして、日本企業は、アジア各国の間に国境を跨いだ価値連鎖（バリューチェーン）を形成・発展させることで自ら巨額の収益（2018年で約5兆7千億円、全世界では13兆8千億円）を得るとともに、現地でも企業収益と労働者所得を発生させることによって少なからず経済発展に貢献してきたのである。

他方、日本国内の経済がこの30年余の間どのように推移してきたかについては、大きく発展を遂げてきたアジア諸国の経済とはあまりに対照的である。バブル景気が崩壊した1990年以降、平成不況、デフレ経済といわれた景気の後退・低迷局面が長期にわたって続いた。2008年のリーマン・ショックに始まる世界金融危機でさらなる打撃が加わった後、第2次安倍政権発足直前に始まった円安局面が中国を始めとするアジア諸国からのインバウンド効果と呼び込むなどして、2012年末以降ようやく景気回復局面に入っていくことになる。以来、2019年末まで戦後最長とされる景気拡大局面が持続することになるのであるが、企業の景況感には改善がみられるものの、GDPや民間消費の伸びが低率で一般国民・消費者が景気拡大を実感できないという状態が続いている。

アジアで展開されてきた様々な部門の日本企業の事業活動が、企業自身と現地経済の発展を導いてきたこと自体は評価されるが、それとは裏腹に停滞の続く日本経済の現状を企業自身どうとらえているのか。日本国内で特に若年層・生産年齢人口の減退が続き将来の成長を見通しにくいなかにあっても、日本企業がアジアで得た収益やそこで培った技術・経営スキル等を日本に還元させるには何が必要なのか。すなわち、日本企業がアジアで発展させてきたソフト的な意味合いを含む価値連鎖を、最終財の消費地であるだけでない新たな投資先としての日本に還ってくるようにさせる好循環はどのようにすれば生み出せるのか。本年の統一論題セッションでは、以上のような視点から「アジアで発展・成長してきた日本企業にこそできる日本経済の将来への貢献」とは何かについて、様々な角度から議論する。そして、その議論が、会員による活発な自由論題報告と相伴って充実した大会となることが期待される。

以上

### Ⅲ. 2019年度全国研究大会報告・部会報告

#### 1. 全国研究大会開催報告

第23回全国研究大会開催

場所：専修大学神田校舎

日程：2019年7月6日（土）・7日（日）

研究発表第1日 7月6日（土） 会場：専修大学神田校舎1号館

【統一論題報告】10:30～11:50<1号館205号教室>

第1分科会 座長：林田 秀樹（同志社大学）

10:30～11:05

第1報告「日本と外国間における三者間取引の現状と課題

－中国、ASEAN主要国を例に－

報告者：石川 雅啓（日本貿易振興機構）

コメンテータ：石川 幸一（亜細亜大学）

11:15～11:50

第2報告「EUの対アジアFTA政策 － BilateralismとBiregionalism の交錯」

報告者：鈴木 清巳（京都産業大学）

コメンテータ：石川 幸一（亜細亜大学）

【統一論題報告】10:30～11:50<1号館2階202号教室>

第2分科会 座長：埜本 一雄（東京福祉大学）

10:30～11:05

第1報告「アセアン経済共同体（AEC）におけるインドネシアの現状と課題」

報告者：バンバン ルディアント（和光大学）

コメンテータ：小林 弘明（千葉大学）

11:15～11:50

第2報告「中国における技術移転政策の形成と変容」

報告者：韓 亮（倉敷芸術科学大学）

コメンテータ：田島 真弓（専修大学）

【自由論題報告】10:30～11:50 <1号館2階202号教室>

第3分科会 座長：岩淵 護（青森大学）

10:30～11:05

第1報告「スリランカにおける耐久消費財の普及と使用－自動車の浸透と車社会の到

来を中心にー」

報告者：石川 和男（専修大学）

コメンテータ：細川 大輔（大阪経済大学）

11：15～11：50

第2報告「持続可能な開発(SDGs)をめぐる動き」

報告者：大島 英雄(大島経営研究所)

コメンテータ：岩尾 詠一郎（専修大学）

【基調講演・統一論題報告】 13：00～15：50<1号館3階301教室>

司 会：池部 亮（専修大学）

【趣旨説明】 13:00～13:10

「米中貿易摩擦とアジア経済」

講演者：小林 守（専修大学）

【基調講演】 13:10～13:50

「米中貿易戦争が与える東アジア経済への影響」

講演者：浦田 秀次郎（早稲田大学名誉教授）

【統一論題】 14:00～14:40

「米中貿易摩擦と米国産業の動向」

講演者：山田 良平（三井物産戦略研究所 北米・中南米室長）

【パネル・ディスカッション】 14:50～15:50

パネラー：浦田 秀次郎（早稲田大学）、山田 良平（三井物産戦略研究所）、  
藤岡 芳郎（大阪産業大学）、グエン・ドゥック・ラップ（広島  
修道大学）

座長：藤永 弘（地域経営未来総合研究所）

研究発表第2日 7月7日（日） 会場：専修大学神田校舎1号館

【自由論題報告】 10:30～12:35 <1号館2階205号教室>

第1分科会 座長：松尾 仁（東京福祉大学）

10：30～11：05

第1報告「中国・タイにおける日本産抹茶の販売促進に関する研究」

報告者：柯 麗華（静岡産業大学）

コメンテータ：石川 和男（専修大学）

11：15～11：50

第2報告「中国のネット通信販売における消費者の継続信頼構築に関する一研究  
ー価値共創を求めてー」

報告者：孔 令建（中国海南軟件職業技術学院/神奈川大学アジア研究セン

ター)

コメンテータ：柯 麗華（静岡産業大学）

12：00～12：35

第3報告「中国のキャッシュレス生活における顧客の価値創造活動と文脈価値の形成」

報告者：張 婧（岡山理科大学）、村松 潤一（岡山理科大学）

コメンテータ：藤岡 芳郎（大阪産業大学）

【自由論題報告】 10:30～12:35 <1号館2階202号教室>

第2分科会 座長：春日 尚雄（都留文科大学）

10：30～11：05

第1報告「1980年代の総合商社のプラント輸出におけるビジネス創造」

報告者：埴本 一雄（東京福祉大学）

コメンテータ：新本 寛之（広島修道大学）

11：15～11：50

第2報告「新興国市場における日系企業の現地適応プロセスに関する研究：実践としての戦略アプローチ」

報告者：藤岡 資正（明治大学）

コメンテータ：村松 潤一（岡山理科大学）

12：00～12：35

第3報告「外国人労働者依存の必要性和迫られる技能高度化への対応」

報告者：高橋 義仁（専修大学）

コメンテータ：江 向華（京都先端科学大学）

【自由論題報告】 10:30～12:35 <1号館2階202号教室>

第3分科会 座長：飯島 高雄（近畿大学）

10：30～11：05

第1報告「The ‘Dark Side’ of Strategic Coupling –Hidden Worries of Taiwanese FPD Industry after the Defeat of Sharp–」

報告者：田畠 真弓（専修大学）

コメンテータ：高橋 義仁（専修大学）

11：15～11：50

第2報告「不祥事企業の株式保有構造による影響」

報告者：柏木 理佳（城西国際大学）

コメンテータ：瀧田 修一（東亜大学）

12：00～12：35

第3報告「日本の保険会社におけるアジア進出が業績予想に与える影響」

報告者：中井 教雄（広島修道大学）

コメンテータ：小林 守（専修大学）

研究発表第2日 7月7日（日） 会場：専修大学神田校舎1号館

【自由論題報告】13:15～15:20 <1号館2階205号教室>

第1分科会 座長：岩尾 詠一郎（専修大学）

13:15～13:50

第1報告「アジア訪日観光客の地域観光における観光価値の研究」

報告者：高橋 良平（倉敷芸術科学大学）

コメンテータ：池部 亮（専修大学）

14:00～14:35

第2報告「国際マーケティング標準化の先行要因と結果要因－食品企業の事例－」

報告者：金 炯中（静岡産業大学）

コメンテータ：丸谷 雄一郎（東京経済大学）

14:45～15:20

第3報告「台湾の外食市場」

報告者：高橋 宏幸（久留米大学）

コメンテータ：田畠 真弓（専修大学）

【自由論題報告】13:15～14:35 <1号館2階202号教室>

第2分科会 座長：石原 伸志（東海大学）

13:15～13:50

第1報告「文化的知性におけるCQSとSFCQの比較研究」

報告者：曾我 寛人（釧路公立大学）

コメンテータ：岩淵 護（青森大学）

14:00～14:35

第2報告「フィリピン進出の韓国商工人の撤収要因に関する研究

－Cebu地域に対する実態調査」

報告者：金 日植（光云大学）

コメンテータ：飯島 高雄（近畿大学）

【自由論題報告】13:15～15:20 <1号館2階203号教室>

第3分科会 座長：小森 正彦（亜細亜大学）

13:15～14:35

第1報告「QBハウスのアジア展開

－シンガポール・香港・台湾における価値共創経営－」



報告者：星田 剛（安田女子大学）

コメンテータ：村松 潤一（岡山理科大学）

14：00～14：35

第2報告「日中-ASEAN諸国間の資源・一次産品貿易の傾向的变化について」

報告者：林田 秀樹（同志社大学）

コメンテータ：中井 教雄（広島修道大学）

## 2. 部会報告開催報告

### (1) 東部部会研究報告会

開催日時：2019年11月23日（土） 10:45～12:35

開催場所：亜細亜大学アジア研究所プロジェクト室（1号館3階）

第1報告 論題：「ダナンにおける経済発展と中小企業等の人材育成  
ー現地調査よりー」

報告者：小林 守（専修大学）

コメンテータ：岩尾 詠一郎（専修大学）

第2報告 論題：「ネット小売普及以降の小売国際化現地化戦略モデル構築のための  
研究ーインド系移民が構築したケニア小売市場に革新をもたらす  
欧米亜の外資の動向を中心としてー」

報告者：丸谷 雄一郎（東京経済大学）

コメンテータ：柯 麗華（静岡産業大学）

### (2) 2019年度 第2回アジア市場経済学会東部部会研究報告会・日本貿易学会東部部 会との合同研究報告会

開催日時：2019年12月21日（土） 13:30～17:00

開催場所：日本大学通信教育部1号館31講堂

講演 タイトル：「『一帯一路』構想の進展を考える」

講演者：秋山 憲治（神奈川大学名誉教授）

第1報告 論題：「日米デジタル貿易協定の概要」

報告者：岩田 伸人（青山学院大学）

コメンテータ：石川 雅啓（日本貿易振興機構）

第2報告 論題：「EU・チュニジア DCFTA 交渉の焦点について  
ー農業部門を中心にー」

報告者：山中 達也（駒沢大学）

コメンテータ：深澤 光樹（東洋大学）

(3) 第1回アジア市場経済学会西部部会研究報告会・日本貿易学会西部部会との合同  
研究報告会

開催日時：2020年2月15日（土） 13:00～17:00

開催場所：広島市立大学サテライトキャンパス 9階セミナールーム 2

第1報告 論題：「世界貿易の減速に関する先行研究の簡単なサーベイ(A Short  
Survey on Global Trade Slowdown)」

報告者：山中 高光（倉敷芸術科学大学）

コメンテータ：関川 靖（名古屋文理大学）

第2報告 論題：「日本酒のGI指定について」

報告者：勝田 英紀（近畿大学）

コメンテータ：河野 公洋（岐阜聖徳学園大学）

第3報告 論題：「新興国多国籍企業による欧米日系多国籍企業の買収の理論と仮説  
と検証」

報告者：藤澤 武史（関西学院大学）

コメンテータ：大東和 武司（関東学院大学）

#### IV. 学会の運営に関する事項

##### [1]. 2019年度 第1回理事会

開催日時：2019年7月6日

開催時間：17:00～17:15

開催場所：専修大学

7月6日の役員選挙結果を受け、第1回理事会が小林会長より招集され小林会長の議長のもとで開催された。その結果、理事全員一致で村松潤一氏が新会長として互選された。

##### [2]. 2019年度 第2回理事会

開催日時：2019年9月1日

開催時間：13:30～16:00

開催場所：大阪産業大学梅田サテライト

出席理事（敬称略）

村松潤一、石川幸一、松尾仁、岩尾詠一郎、今村一真、坂東達郎、関川靖、高橋宏  
幸、柯麗華、藤岡芳郎（出席：10名、委任状：11通）

幹事（敬称略）

星田剛

1. 基本方針と新体制の人事について

1.1 村松会長から、学会の目的（第2条）、特性について以下の確認があった。

- ① アジア市場に関する歴史，理論および実証的研究
- ② 関連諸学会ならびに諸機関との連携
- ③ アジア経済ならびに世界経済の発展に寄与
- ④ 学問の進歩に貢献
- ⑤ 研究領域（社会科学，人文科学），所属（研究教育機関，実務界），年齢層の多様性

1.2 村松会長から、以下の基本方針が示され了承された。

①国際化の推進（目的①～⑤）

- ・国内大会における英語セッション設置
- ・国際大会・シンポジウム開催
- ・年報の国際ジャーナル化
- ・海外学会、機関との連携
- ・海外会員増強

\*以上、国際化推進WG、J-StageWG、会員増強WGが既存委員会と連携して実施

②基盤強化（目的②、⑤）

- ・会員増強（⑤）

会員ひとりがひとりを推薦する運動→会員増強WG

- ・国内学会、機関との連携（②）

1.3 村松会長から、新体制について案が示され了承された。

1.4 補足説明及び審議

①任命理事について来年度全国大会開催校である同志社大学林田秀樹会員を推薦して了承された。

②顧問について

村松会員が会長就任に伴い、顧問を辞任すること、顧問に川本明人会員（広島修道大学）を推薦して了承された。

③日本経済学会連合評議員について、これまでの慣例では会長就任者が就任することになっていることから高橋義仁会員、小林守会員を届け出たことを説明して了承された。

④WGについて国際化推進は明治大学の藤岡資正会員、J-Stageは高橋義仁会員、会員増強は東西の副会長、石川和男会員、関川靖会員がリーダーとして実施することを提案して了承された。

## 2. 本年度の活動スケジュールについて（案）

村松会長から研究会の予定を立てること、運営委員会を重要な事項の審議で開催する必要があることの説明があった。

関川会員から研究会のスケジュールで貿易学会西部部会とアジア市場経済学会西部部会との合同研究会が2月15日（土）に広島で開催されることの説明があった。

理事会を年に4回開催すること、第3回理事会を11月に東京で開催することで23（土）、30日（土）の案で了承された。会場は専修大学または亜細亜大学の予定である。

第4回理事会を3月28日（土）に大阪産業大学で実施することで了承された。

## 3. 各委員会の活動計画について

### 3.1 副会長（会員増強WGリーダー）

副会長関川会員から一人一名加盟促進運動を実施すること、大学院生を積極的に加入させること、複数学会に加盟している会員は本学会に加盟されるように推奨することが報告された。

副会長石川会員は欠席のため会長が以下の方針を代読した。

新入会員に入会していただいたらその会員から新しい会員を紹介していただくこと、隣接の学会に加入されている先生に声をかけることが報告された。

### 3.2 各委員会委員長

総務委員会委員長の松尾会員からホームページの新規理事、会長挨拶の更新をすること、JAFAME ニュースの更新をすること、学会会員名簿の管理について複数に分散していることから検討が必要であることが報告された。

印刷物としての学会会員名簿は発行しないこと、事務局と総務委員長で名簿の共有化することが了承された。

研究委員会委員長の岩尾会員から従来通り研究会を開催すること、SIGの募集をすることの報告があった。

年報委員会委員長の今村会員から年報22号の配送委託先について質問があった。審議の結果、白桃書房と国際ビジネスセンターから見積りを取り決めることにした。会長から年報は全国大会で会員に配布できるようにスケジュール管理をお願いしたいとの依頼があった。

国際交流委員会委員長の柯会員から海外研修の日程を決めて案内するとの報告があった。

### 3.3 各WGリーダー

J-StageWGのリーダー高橋義仁会員は欠席のため会長が以下の方針を代読した。

- ・年報委員会と密接に連携し、オンラインジャーナルの発刊を継続する
- ・過年度のオンライン未掲載分をオンライン掲載する
- ・年報新刊分をオンライン掲載する

- ・過年度既掲載分のオンラインジャーナルに対し、発刊巻号が新しいものからアブストラクトの掲載に着手する

- ・その他、オンラインジャーナルの充実を行う

国際化推進 WG リーダー藤岡資正会員は欠席のため会長が以下の方針を代読した。

- ・年報の国際ジャーナル化

- ・国内大会での英語セッションの新設

- ・国際学会（会議やシンポジウム）の開催

- ・国内大会での英語セッションの新設

- ・国際学会（会議やシンポジウム）の開催

#### 4. 第 24 回全国大会（同志社大学）について

林田会員が中心になって準備を進める。7月4日（土）5日（日）で開催される。前日の7月3日（金）に理事会を開催する。11月の第3回理事会にて共通テーマと主旨の説明をする。

#### 5. 会員の入退会について

以下の入退会が了承された

入会希望者は1名で、退会希望者は1名である。

現在の会員数（2019年8月事務局引継名簿）は、正会員164人、大学院生10人、法人1企業、一般1人、海外会員50人の 合計225人と1企業である。

会長から学会の魅力アップに全力で取り組むので会員増強に努めていただきたいとの話があった。

今村会員から修士課程院生の加盟をどうするのかについて質問があった。

会員増強を推進することから今後検討することです承された。

(以上)

### [3]. 2019年度 第3回理事会

開催日時：2019年11月23日

開催時間：14:00～15:30

開催場所：亜細亜大学

出席理事（敬称略）

村松潤一、石川幸一、松尾仁、岩尾詠一郎、小林守、高橋義仁、坂東達郎、藤岡資正、柯麗華、新本寛之、清野聡、林田秀樹、藤岡芳郎（出席：13名、委任状：7通）

幹事（敬称略）

岩淵護、大島英雄、小森正彦、齋藤典晃

### 1. 第24回全国大会（同志社大学）について

林田任命理事から提出されたアジア市場経済学会 第24回全国研究大会の統一論題・趣意書の内容について審議した。理事会で出された意見を反映させてブラッシュアップして再度提出する。

再度案が示された後に、会長が理事会の構成員とメールで検討して決定することにした。

基調講演は亜細亜大学大泉啓一郎先生と京都財界の方と二人のゲストスピーカーで実施したい。統一論題のセッションは同志社大学人文科学研究所の公開講演会との共催で実施したいと考えている。ゲストスピーカーの昼食会の費用や招聘予算は研究所が負担する。また、公開講演会は研究所の職員が運営を手伝う。

以上の林田任命理事からの提案は承認された。

学会を国際化していきたいので全国大会で英語セッションを設置する。また、若手を育成するために大学院生向けのセッションをスタートさせる。

以上の会長からの提案は承認された。

休憩室を含めて小教室を4つ、大教室を1つ確保しているが、もう1つ小教室を確保する。

### 2. アジア市場経済学会の会員資格ならびに会費に関する申し合わせについて

現在、申し合わせの案を作成している。次回の理事会で検討していただきたい。学会を国際化することで会員増強する。学会の活性化のために若い会員を増やしていきたい。そこで、院生会員としてこれまでは後期博士課程に加えて前期課程の入会を認めていきたいと考えている。

以上の会長からの提案は承認された。

日本経営診断学会は全国大会で院生コーナーがある。院生は後期・前期を問わず院生コーナーで報告している。

会員の休会制度を設けるかどうか。

一般会員は被選挙権、選挙権は無い。

現在一般会員は会則では10000円と規定されているが、実際は7000円で運営されている。

以上意見が出されたが、細部は運営委員会で審議して3月の理事会で上程することになった。

### 3. 各委員会・WGからの活動報告

副会長（石川先生（代読））～前回の理事会から特に進展はない。会員1名推薦した。

副会長（関川先生（代読））～会員増加のWGは前向きに取り組んでいる。

総務委員会（松尾先生）～役員更新、部会案内、SIGをHPへ掲載した。JAFAMEニュー

スの原稿の依頼をする予定である。2月から3月頃までに依頼して4月頃に原稿提出する。5月から6月初旬に掲載する予定である。12月の早い段階で全国研究大会の趣意書と一緒に日程をHPに掲載する。業者との契約で月に2回の更新依頼が上限である。

研究委員会（岩尾先生）～SIGの公募で1件申込があった。本日第1回東部部会を実施した。第2回東部部会は日本貿易学会東部部会と共同で12月21日（土）に市ヶ谷の日本大学で開催予定である。次回3月の理事会の前後で第3回東部部会を東西合同部会で実施したい。

年報編集委員会（今村先生（代読））～査読者を選定して全国大会で配布できるように実施中である。

国際交流委員会（柯先生）中国研修で上海のファミリーマートやセブンイレブンなどの視察や講演を予定している。3月24日（火）から27日（金）で実施予定である。現地集合、現地解散の自由なかたちで運営する。

国際化推進WG（藤岡（資））～海外の会員を増やす。英語で議論するセッションを創設する。院生を含めて英語でジャーナルを出す。学会を海外の方に知っていただくために、海外の大学や研究機関と協力してシンポジウム、ワークショップをする。

J-StageWG（高橋（義））J-Stageの掲載手順についてマニュアル化をしたいと考えている。入力フォームがあるので年報委員から投稿者に作成を依頼していただきたい。今後は、手順を明確化して登録業務を簡易化したい。これまでの論文は高橋（良）先生、張先生にPDF化を依頼して完了した。過去に遡ってメンテナンスしたい。現状で電子ジャーナルの機能は果たせるがPDF化する前の編集作業をする必要がある。外部に委託すれば費用が発生する。昨年度理事会で学生アルバイトを使用して入力作業する案が採択された。学生一人で2万円程度である。

#### 4. 会員の入退会について

以下の入会が了承された。

入会希望者は11名で、

正会員（8名）

院生会員（2名）

海外会員（1名）

である。

現在の会員数は合計242人と1企業（内訳 正会員177人、大学院生12人、法人賛助会員1企業、一般会員1人、海外会員52人）である。

## 5. その他

今後修士課程の院生の推薦をお願いしたい。

SIG 公募 1 件について承認された。

学術会議経済学連合からアカデミックフォーラムの案内、補助事業の案内があった。年間に 3 回の募集がある。経済学連合の会報誌に柏木先生が執筆中である。補助事業に応募者がいれば運営委員会で審議する。

### [4]. 2019 年度 第 4 回理事会

2020 年 3 月 28 日に開催予定であった 2019 年度第 4 回理事会はコロナウイルス感染拡大に伴う処置として延期した。きわめて緊急性の高い事項について、メールでの審議という形で理事会を開催した。メール審議による理事会(2019 年度第 4 回理事会兼 2020 年度第 1 回理事会)では、以下の 2 つについて諮り了承された。

#### 1. 第 24 回研究大会の開催方法の変更

今大会は、同志社大学の林田実行委員長のもとで開催に向けた準備が進められてきましたが、昨今の状況を踏まえ、現地開催から web 開催に変更します。

大会は、会員にとって研究報告を通じた年に一度の切磋琢磨の場であり、学会の研究水準の維持・向上のためには欠かせないものです。そこで、今回、学会活動の活性化に向けた努力の 1 つを、web 上での何らかの形による大会開催に向けることとしたいと思います。

そのため、直ちに、林田実行委員長には web 開催の準備(実行可能な具体的な方法の調査・検討)に入っていただきたいと考えております。この点については、実行委員長とも協議済みです。なお、統一論題セッションの同志社大学人文科学研究所との共催については、別の機会に譲るものとします。

#### 2. 新入会員の資格審査・承認の一任

学会活動の活性化の一環として、会員の増強に努めて参りましたが、その中には、大会での報告を希望している者も含まれており、早急に会員資格審査を実施する必要があります。本来なら、運営委員会で審査し、理事会で承認を得る必要がありますが、個人情報を含む書類をもとにメールで審議することは好ましいとはいえ、今回は、審査・承認を東西副会長、本部事務局長及び会長の 4 名に一任していただければと思います。

以上



## V. 2019年度海外視察研修報告

国際交流委員長 柯 麗華

予定されていた2020年3月24日（火）から27日（金）までの3泊4日の中国上海への海外視察研修は、新型コロナウイルスの感染拡大により、急遽延期となった。多くの会員から参加のご意欲が示されたが、実施されず大変残念だと思う。

19年度の海外視察研修の延期を受け、20年度にはどのような形で開催していくのか、新型コロナウイルスが終息し、安全に海外へ渡航できるようになった際、またお知らせする所存である。

以上